第2740地区 創立／1990年9月29日 認証／1990年10月22日

佐世保中央ロータリークラブ週報

会長：西村 浩輝／副会長：山瀧 正久／幹事：野村 和義

2013～2014年度クラブスローガン

『淡々とロータリーを楽しむ』
ありがとうの心で

2013～2014年度RIテーマ
ロータリーを実践し
みんなに豊かな人生を

〒857-0872長崎県佐世保市上京町3-2セントラルホテル佐世保419号室 TEL.0956-25-5595 FAX.0956-25-3445 Mail.chuo-rc@theia.ocn.ne.jp

本日の出席率７８．０４%: 会員数４１名・出席３０名・欠席９名・出席規定免除会員（２） ２名・ビジター１名
前々回の修正出席率１００%: 出席３０名・メークアップ８名・出席規定免除会員（２） ２名

会長挨拶／西村 浩輝君



皆さん、こんにちは。寒い日が続いております。気を付けていらっしゃると思いますが、体調は如何でしょうか。

昨日は、市内8RC会長・幹事会が当クラブの担当で開催されました。今回は新年会ということで協議することもありませんでしたが、当クラブ担当の市内8RC親睦ゴルフ大会を5月11日（日）に佐世保カントリー倶楽部でプレーし、懇親会を玉屋でという報告をしております。各クラブの会長さん達は、会員増強という話で盛り上がっておりました。佐世保RC、佐世保北RCでは入会したいと思われるクラブにしたいということで努力している話をされていました。佐世保中央RCも負けてはいられません。

早いもので被選理事会がもう第3回目を迎えております。よりいっそうの会員増強されることを願っております。

先日三連休の時、春高バレーの九州文化学園の活躍にはテレビに釘付けになりました。準決勝の共栄学園、決勝の東九州龍谷高と戦い、両試合とも2セット連取された後の頑張りには目を見張るものがありました。フルセットでのジュースの連続、マッチポイントが相手に入ってもうだめかと思われる場面が繰り返されていました。我慢できずにネットで結果を調べ優勝を知ったのですが、ジュースで25－23まで勝てる雰囲気が全然なくマッチポイントを消すのがやっとの試合内容の中、エースアタッカーの田中選手の頑張りで勝負がつくというものでした。

この原稿を考えていた時、高校サッカーの決勝があっており、これまたすごいドラマがありました。アディショナルタイムで2対2の同点、延長戦の後半、PK戦のスペシャリストのGKが準備されている時に決勝点が入るという試合でした。本当に高校生の活躍に元気をもらい楽しませてもらいました。このように感激すること これも健康法の一つではないでしょうか。
ありがとうございました。

本日のビジター紹介

佐世保ロータリークラブ 河原 忠徳様

Report 幹事報告／野村 和義君

1．例会変更
佐世保西ロータリークラブ
1月28日（火）12：30→18：30～
セントラルホテル 長寿会のため

2．来 信
・ガバナー事務所
①米山奨学生世話クラブ・カウンセラー依頼状
②2014－15年度RIのテーマのお知らせ
「ロータリーに輝きを」（Light Up Rotary）

3．伝達・依頼
・次週1月23日の例会は「ロータリー 理解推進月間に因んで」のクラブ協議会です。

committee 委員会報告

坂井智照 クラブ管理委員会委員



新年のスタートです。今年の干支は「甲午（きのえうま）」です。まず、「甲（きのえ）」とは「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」と並ぶ十干の一番はじめの年となります。かつては成績表にも使われており、全甲は今でいうオールAの優等生でした。甲の字は「草木の芽が殻を破って頭を出した象形文字」であり、まさに成長の始まりを意味します。次に十二支の「午（うま）」は、陽の極地と言います。簡単に言えば一番陽の高い時間を「正午」と呼ぶように、勢いが頂点に達することを意味します。また、「甲」の性質は「木」で、「午」の性質は「火」であることから、火に薪をくべるように燃え上がり、まるで暴れ馬のような勢いをもつ年になるとも言われています。

週報製作：会報・出席委員会／池永 隆司、長富 寿人、牟田 憲市、鶴田 明敏、古川 直記、糸瀬 新

(^_^) ニコニコボックス

佐世保ロータリークラブ 河原忠徳様

本年度、初のメイキャップに参りました。宜しくお願い致します。

西村浩輝会長・山瀧正久副会長・野村和義幹事

お寒い中、淡々とご出席いただきありがとうございます。また、本日は佐世保ロータリークラブの河原忠徳君のご来訪、誠にありがとうございます。心より歓迎申し上げます。さて、本日は長崎県立佐世保特別支援学校 校長 中村敦様の卓話となっております。佐世保中央ロータリークラブと佐世保特別支援学校とは社会奉仕プロジェクトを通じて色々な交流を行ってまいりました。これから先も関係を密にして交流を図りたいと考えております。今日の話を本当に楽しみにしておりました。中村校長先生どうぞ宜しくお願い致します。

大久保厚司君

結婚記念日の花を頂きましてありがとうございました。お陰様で35年無事何事もなく過ぎました。

岩政孝君

先週お休み致しました。改めまして本年も宜しくお願い申し上げます。昨年暮れより、長崎労働局への申告に関して意見の相違があり、四苦八苦しておりました。今年は良い年でありますように…

馬場貴博君

西村会長、野村幹事、昨日の件深くお詫び申し上げます。

嘉村大輔君

佐世保中央ロータリークラブに入会させて頂きありがとうございます。会が盛り上がる様、自分なりに努力させて頂きます。今後ともご指導お願い致します。

本日の合計	10,000 円
本年度の累計	517,000 円

本日の卓話

＊ ゲスト卓話 ＊

《 発達障害児について 》

長崎県立佐世保特別支援学校
校長 中村 敦 様



皆様が気付いているかいないかわかりませんが、比較的接しているだろう、そして比較的新しい障害、発達障害についてお話します。

発達障害が話題になり出したのが、15年ほど前からで10年ほど前教育の世界でも対応が大きな問題となっています。

発達障害とは、学習障害、注意欠陥多動障害、高機能自閉症またはアスベルガー症候群があります。今までの知的障害とはイメージが違い、私達が障害があると気付いてない事が多いです。何故気付かないかというとこの障害は基本的に知的障害はありませんが、かなり特異な行動をしめします。

たとえば、学習障害の事例で、簡単な小学校1年生程度の算数の文章で、「昨日ミカンを10個もらいました。昨日3個、今日4個食べました。今ミカンは何個あるでしょう。」当然、10－3－4＝3個ですが、障害がある子どもはこの問題が解けません。数式で書いてあれば解けます。「昨日3個、今日4個食べました」ということは合計7個食べたと解釈しますが、障害がある子どもは「昨日3個、今日4個食べましたで、昨日3個は食べたかどうか文章に食べたと書いてないので解りません。そういった類推ができなく、言葉で示さないと理解できません。

私が初めてアスベルガー症候群の子どもに出会ったのが小学校2年生の女の子でした。子どもがいっぱいいて、その子が私の所に来て、「みんなと一緒にかくれんぼしたい」と言ったので、「誘えばいい」と言いました。するとみんなは周りをうろうろしていたのですが、その子は壇上に立って、みんなに向かって「かくれんぼする者この指とまれ」と言いました。でも誰も来ませんでした。3回続けて言いましたが誰も来ません。ふつうそうなるとみんな、かくれんぼしたくないのだな。あるいは今私と遊びたくないのだなと感じ取りますが、その子が次に言った言葉に私はびっくりしました。「みんながかくれんぼしたくないのなら、したくないと言ってくれないと解らないじゃない」その子は言葉で言ってもらわないと解らない。暗黙の了解が解らないのです。その子は自分の気持ちを言葉にしないと伝わらないと思っているから、しょっちゅうしゃべります。ずっとしゃべります。いわゆる空気を読むということが出来ないのです。対人関係を築くのが困難で集団生活がうまくいきません。すると学校の中で色々と問題が起きます。従来の障害と違って言われればちゃんと出来ますが、障害があると思わないので回りが気付きにくいので、対応が遅れ深刻化して不登校、他者への暴力、引き籠もり、家庭内暴力を引き起こす例があります。この発達障害は、最近出来た病気ではなく昔からあった病気で、昔は変わった人だな、あまり付き合わないでおこうと変人扱いされてきました。

15年前初めて小学校で調査をした時に、6 .3%の子ども達に発達障害児がいるという大変な数で、6 .3%ショックという言葉で伝えられ、文部科学省が対応に迫られました。

私のかかわった違う事例として、40代の女性で九州大学医学部を卒業して、就職したが続かない。何故仕事が続かないか尋ねるとその女性が言ったのは「ある会社に就職して9時に出勤して5時退社と勤務時間を聞いていて、そう思っていたら、会社の若い社員から「9時出勤だけど、せめて8時45分には出勤して、お茶を沸かしたり、掃除をしたほうが良い」と言われたが、女性は8時45分に出勤しなければいけないのか理解出来なかったそうです。

そういうことで会社を転々と変わられ、そして結婚され子どもも2人いらっしゃいます。ある時ご主人から、その女性の食事の食べ方がおかしいから変えなさいと言われたそうです。それは、ご飯、味噌汁、おかずと出たら、ふつう案配良く食べる三食食べで食べますが、女性はご飯だけ食べ、食べ終わったら、次の食べ物に。三食食べが出来ないのです。三食食べが何であるかも知っているし、ご主人が三食食べをしてほしいと思っているのも解っているのですが、どうしても三食食べが出来ません。私達では理解出来ない思考をしています。これが非常に難しいのです。

10年ほど前から、私が諫早地区で教頭をしていた時に、地域の小学校にこういった子どもがいるから、適切な対応をして下さいと話して回っても誰も信用してくれませんでした。教員が気付けば問題はかなり解決します。しかし発達障害かもしれないという思いにいかなければ、問題は複雑化して、その子達が大人になり就職して、職場で色んな問題が起きています。皆さんの職場にもいるかもしれません。

私が教員になって33年になりますが、この方は発達障害だなと思った人が2人います。でも知的障害はなく、大学に行くし、むしろ頭が良いです。2人の内1人の方は校長先生まで務められました。

今現在、発達障害の子ども達がたくさんいるという事を理解してほしいと思っています。そして、その子ども達が学校を卒業していく中で、一番問題になっているのが中学校から高校にあがる時、普通の高校に行ってもドロップアウトする子が多いです。10年ほど前から長崎の玉成高校がそういった子ども達の為のコースを作って、1学年20名受け入れました。受け入れの条件として、本人も保護者もその子が発達障害を認め、本人も自覚していることです。高校の生き残りということもあって、私立高校ではそういうコースを作るところが出来ると思っていましたが、全然出来ていません。むしろ大学のほうが早く対応しています。受験の時の配慮、入学の時のバックアップなど取り組んでいます。通常の高校でいるわけですから、どういった指導をするか研究していかなければならないと思います。発達障害は脳の病気です。見極めは難しいですが、皆様も今日の話を頭の片隅に入れて頂き、ご支援をしていただければと思います。











memo

SAA：馬場貴博君
次回例会／1月23日12：30～
次回献立／海鮮ちらし、肉うどん、小鉢